



一ツ戸城址・鶯ヶ城の景
国指定名勝耶馬溪

建久六年（一一九五年）に築城された一ツ戸城は、国道二一・二二号線の耶馬溪町と山国町との境にあり、標高三八〇mの断崖上に築かれた堅固な山城で、代々の城主は仲間氏であったが、元和元年（一六一五）徳川秀忠の一國一城令により取り壊され廃城となる。

右手の町道を三〇〇m位上ったところより登れば、頂上近くの雑木林の中に石積み、石垣、曲輪等の跡や古瓦の破片も落ちており、城門跡であったことをうかがわせる。

左側には、同じような山の形をした岩山があり、山上に鶯ヶ城という支城が構築されていた。これは、のろし台としてつかわれていたという。

かつての一ツ戸集落は、城下町として栄え、廃城してから隧道（トンネル）ができるまでは、宿場町としてにぎわいをみせた。

当時の一ツ戸隧道は文化二年（一八〇五）日田代官羽倉権九朗秘数と中摩・宮園の村人が四年の歳月をかけて貫通したものである。

※曲輪：城・とりでなどの周囲にめぐらした囲い。城郭。

山国町教育委員会

